

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-33

学校名・団体名	安城市立高棚小学校
HPアドレス	<a href="http://www.anjo.ed.jp/~takatana">http://www.anjo.ed.jp/~takatana</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	おのくんプロジェクト ～輝かせよう命、つながろう命～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>今年度もおのくんプロジェクトを継続し、各学級に新しいおのくんを仲間として置き、震災を忘れないようにした。さらに、今年度は、小野駅前仮設住宅から被災者を学校にお招きし、子どもたちが被災者の生の声を聞く機会を設けた。生の声を聞くことで、遠い所で起こった災害を身近に感じ、我が事意識が芽生えてくることが期待できる。そこから、遠く離れていても、お互いに命を大切にし、交流を深めながら励まし合うことで命の輝きやつながりを感じることができると考えた。まとめとして、その活動を「いのちのカレンダー」にまとめ、被災者に贈った。</p>	

## 1 活動時期および内容

### (1) 4月

「おのくん」を各学級に配付し、担任から、今年度も「おのくん」をクラスメートとして迎え、震災復興を応援する気持ちや「いのち(命)」を大切に生きていこうという気持ちを大切にしていけることを話した。また、校長から全校朝礼の話として、今年度も「おのくんプロジェクト」を継続していくことや、活動を「いのちのカレンダー」にまとめていくことなどを話した。

### (2) 5月~12月

いのち(命)に関する学習や活動を展開し、「おのくん」とともに写真におさめ、子どもたちの声を記録していった。

#### ア いのちの標語作り

- ・全校児童が「いのちの大切さ」の標語作りに取り組み、校内掲示をした。
- ・各クラス1点の標語を「おのくん」の写真とともに「いのちのカレンダー」に掲載し、被災地のみなさんに、共に生きていこうという気持ちを伝えられるようにした。

#### イ いのちの絵画

- ・全校児童が「いのちのつながり」や「共に生きる」をイメージした絵をかき、校内掲示した。
- ・各クラス1点の絵を「おのくん」の写真とともに「いのちのカレンダー」に掲載し、被災地のみなさんに、いのちのつながりや共に生きていこうという気持ちを伝えられるようにした。

#### ウ 「いのちのカレンダー」作り

- ・いのち(命)に関する学習や活動を「おのくん」とともに写真におさめたものと学習を終えての子どもたちの声を1枚のシートに編集し、毎月のカレンダーのページにした。

扉見開き—いのちの絵画 4月—1年生 5月—2年生

6月—3年生 7月—4年生 8月—5年生

9月—6年生 10月—特別支援学級 11月—保健室関係

12月—児童会 1月—PTA 2月—地域 3月—職員

※毎月「いのちの標語」を下欄に掲載



【「いのちのカレンダー」】

### (3) 2月

被災者(小野駅前仮設住宅)を高小まつり(児童会主催感謝の会、学習発表会)へ招待

①子どもたちへ震災から現在までのお話や「おのくん」制作にまつわるお話を聞いていただいた。

②子どもたちから「いのちのカレンダー」のプレゼントをした。



【子どもたちからの招待状】

## 2 効果

昨年度の「おのくんプロジェクト」の継続として、今年度の活動を平成29年度版「いのちのカレンダー」にまとめることができ、来年度への発展性も期待できる。震災から6年目を迎えようとしている小野駅前仮設住宅の方を学校へ招待し、震災や「おのくん」制作にまつわるお話を聞かせていただいたことで、子どもたちが震災を忘れてはいけないことに気付き、ともに生きていこうという気持ちを高めることができた。また、被災された方が学校に招待され、子どもたちとふれ合うことで、復興を応援する気持ちを感じとっていただいたり、学校で「おのくん」を子どもたちが大切に、かわいがっていることを見ていただいたりすることができた。招待した当日、被災者の方が笑顔いっぱい、子どもたちとふれ合う姿がたくさん見られた。



【子どもから手紙と花を受け取る被災者】



【震災の話を聞く会】



【「いのちのカレンダー」を持つおのくん】